【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成27年5月28日(2015.5.28)

【公表番号】特表2014-516767(P2014-516767A)
【公表日】平成26年7月17日(2014.7.17)
【年通号数】公開・登録公報2014-038
【出願番号】特願2014-504441(P2014-504441)
【国際特許分類】
Ｂ０１Ｊ　37/02　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　27/055　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　37/08　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　35/10　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 301/10　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 303/04　(2006.01)
Ｃ０７Ｂ　61/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０１Ｊ　37/02　１０１Ｄ
Ｂ０１Ｊ　27/055　Ｚ
Ｂ０１Ｊ　37/08
Ｂ０１Ｊ　35/10　３０１Ｇ
Ｂ０１Ｊ　35/10　３０１Ｊ
Ｃ０７Ｄ 301/10
Ｃ０７Ｄ 303/04
Ｃ０７Ｂ　61/00　３００

【手続補正書】
【提出日】平成27年4月8日(2015.4.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
支持体に担持された銀と亜鉛を有するエチレンオキシド製造用触媒の製造方法であって、少なくとも
（ｉ）支持体を用意する工程、
（ｉｉ）（ｉ）の支持体を、少なくとも一種の亜鉛化合物を含む少なくとも一種の混合物Ｇ１と接触させて、この支持体に亜鉛を、（ｉ）の支持体の総質量に対して元素として計算して１０ｐｐｍ～１５００ｐｐｍの量で塗布する工程、
（ｉｉｉ）（ｉｉ）で得られた支持体を乾燥及び／又は焼成させる工程、
（ｉｖ）この乾燥及び／又は焼成後の支持体を、少なくとも一種の銀化合物を含む少なくとも一種の混合物Ｇ２に接触させて、この支持体に銀を塗布するする工程、を含む方法。
【請求項２】
上記触媒が、促進剤としてレニウムを含む請求項１に記載の方法。
【請求項３】
工程（ｉｖ）でレニウムが、さらに少なくとも一種のレニウム化合物を含む混合物Ｇ２での含浸により、（ｉｉｉ）の乾燥及び／又は焼成された支持体に塗布される請求項２に

記載の方法。
【請求項４】
上記支持体がアルミナ支持体である請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項５】
上記支持体のＤＩＮ－ＩＳＯ９２７７により求めたＢＥＴ表面積が０．５～１．５m^2／ｇの範囲である請求項１～４のいずれか一項に記載の方法。
【請求項６】
上記支持体が二峰性気孔分布をとる請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。
【請求項７】
混合物Ｇ１が酢酸亜鉛とエチレンジアミンを含む請求項１～６のいずれか一項に記載の方法。
【請求項８】
亜鉛が、（ｉ）の支持体の総質量に対して元素として計算して５０～１２５０ｐｐｍの量で、（ｉｉ）で支持体に塗布される請求項１～７のいずれか一項に記載の方法。
【請求項９】
（ｉ）で提供される支持体が、さらに（ｉ）の支持体の総質量に対して元素として計算して１～１０００ｐｐｍの亜鉛と１～１００００ｐｐｍのジルコニウムを含む請求項１～８のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１０】
上記触媒がさらに、元素周期律表のＩＡ族とＶＩＢ族、ＶＩＩＢ族、ＶＩＡ族の元素から選ばれる少なくとも一種の他の促進剤を含む請求項１～９のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１１】
上記触媒が銀を、触媒の総質量に対して元素として計算して５～３５質量％の量で含む請求項１～１０のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１２】
さらに、
（ｖ）（ｉｖ）で得られた支持体を乾燥及び／又は焼成することからなる請求項１～１１のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１３】
支持体上に塗布された少なくとも銀と亜鉛を含むエチレンオキシド製造用触媒であって、請求項１～１２のいずれか一項に記載の方法により得られるまたは得られた触媒。
【請求項１４】
請求項１３に記載の触媒の存在下でエチレンを酸化してエチレンからエチレンオキシドを製造する方法。
【請求項１５】
請求項１３に記載の触媒を、エチレンの酸化によりエチレンからエチレンオキシドを製造するための触媒として使用する方法。